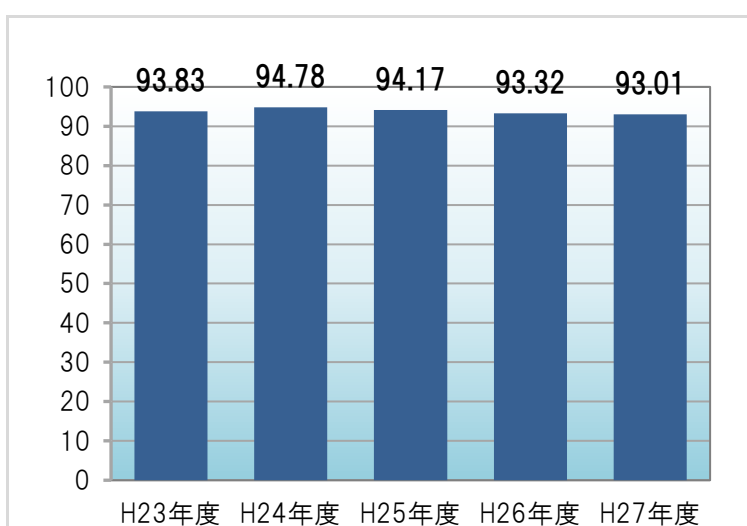


22 手術あり肺血栓塞栓症予防対策実施率

● 項目の解説

肺塞栓症リスクの高い患者に対する、予防対策の実施割合です。

● 当院の実績



単 位 | %

期 間 | 年間

備考・コメント

肺塞栓症は長期臥床や骨盤部の手術後に発症することが多い疾患です。当院では、弾性ストッキングの使用などの予防対策を適切に実施しています。

平成27年度国立大学病院平均値 90.02%

分子: 分母のうち、「肺血栓塞栓症予防管理料(弾性ストッキングまたは間歇的空気圧迫装置を用いた計画的な医学管理)」が算定されている、あるいは抗凝固薬が処方された患者数。
 数式 | 分母: 肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数(リスクレベルが「中」以上の手術は『肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症)の予防ガイドライン』に準じて抽出)。

● 定 義

肺塞栓症リスクの高い患者に対する、予防対策の実施割合です。